

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんのご家族の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の問合せ先までお申出ください。
その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	興奮毒性を要因とする小児急性脳症症候群における DAMPs の臨床的意義の検討			
② 実施予定期間	実施許可日 から 2028年3月31日			
③ 対象患者	対象期間中に当院小児科で興奮毒性を要因とする小児急性脳症症候群（興奮毒性型脳症）に対する治療を受けられた患者さん、および、同時期に小児科で血液検査を受けられた、興奮毒性型脳症ではない患者さんで、生後28日以降10歳未満の患者さん			
④ 対象期間	2010年1月1日 から 2025年3月31日			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院			
⑥ 対象診療科	小児科			
⑦ 研究責任者	氏名	松重武志	所属	山口大学医学部附属病院小児科
⑧ 使用する試料・情報等	対象期間までに当科において興奮毒性型脳症に対する治療を受けられた患者さん、および、同時期に小児科で血液検査を受けられた、興奮毒性型脳症ではない患者さんの保存血清を用います（日常診療に影響を及ぼさないことが確認された分量のみを、本研究に用います）。 治療内容や検査結果、経過の判断のために、診療録を参照します。具体的には、識別コード、性別、生年月、身長・体重、合併症、既往歴（急性脳症以外の重要な神経疾患歴）、興奮毒性型脳症の臨床情報（発症年齢、初期発作持続時間、誘因となる感染症・外傷、意識障害、麻痺、後期発作の時期と期間、診断、治療歴、予後）、検査データ（血液検査：白血球、C反応性タンパク、プロカルシトニン、血糖、アンモニア、クレアチニン、AST[アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ]、ALT[アラニンアミノトランスフェラーゼ]、乳酸脱水素酵素、血中尿素窒素、ビリルビン、クレアチニナーゼ、神経特異的エノラーゼ、電解質、凝固系、血液ガス分析、および髄液検査：細胞数、蛋白、糖）、頭部MRI画像検査（MRスペクトロスコピーを含む）、脳波検査、および保存血清を用いて調べる項目（インターロイキン33[IL-33]、腫瘍形成抑制因子2[ST2]、高移動度グループボックス1[HMGB1]）が含まれます。			
⑨ 研究の概要	興奮毒性型脳症は、けいれん発作後に一度回復した後に数日後に再度発作が繰り返し起こり、意識障害を呈するけいれん重積型二相性脳症を代表とする小児に好発する急性脳症です。早期診断が難しいことと、高率に神経			

	<p>学的後遺症を来すものの、確立された有効な治療法がないことが課題となっています。また、これ以外にも頭部外傷後に同様の経過を示したり、分類不能の脳症の中にも同様の病態が示唆されているものもあります。これらの病気では、「興奮毒性」と呼ばれる神経の過剰な刺激によって脳の細胞が傷つくことがあると考えられています。</p> <p>本研究では、この病態の一部に、ダメージ関連分子パターン (DAMPs) と呼ばれる、細胞が傷ついたときに体内に放出される物質が関わっているのではないかと考え、代表的なDAMPsであるIL-33/ST2系やHMGB1の濃度を測定し、病気の成り立ちや予後との関係を調べます。興奮毒性型脳症の患者さんどうしの比較や、他の病気の方（対照群）との比較も行います。また、発作の初期と後期での変化や、けいれんの時間、血液検査の結果との関係も調べます。これにより、将来的により早く病気を見つけるためのバイオマーカーや、将来的な新しい治療法の手がかりとなることが期待されます。</p>				
⑩ 実施許可	研究の実施許可日	2025年 12月 3日			
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>				
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。				
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはできません。				
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。				
⑮ 研究の資金源	小児科の奨学寄付金を用いて実施します。				
⑯ 利益相反	本研究の計画・実施・報告に影響を及ぼすような利益相反はありません。				
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院小児科 松重武志				
	電話	0836-22-2258	FAX 0836-22-2257		